

1000年育った木を用い
1000年つないだ技を生かし
1000年そびえる塔を建てる

災害列島を生き抜いてきた原点
「ものづくり」の魂と絆を見つめ
大震災後のあり方をも示唆

鬼に訊け

宮大工西岡常一の遺言

ドキュメンタリー映画

千年先に、いのちを繋ぐ

上映会(88分)



1990年5月、薬師寺回廊第一期工事。西岡は最晩年にあたるこの時期、癌に冒されながら最後の教えを若者たちに授けていた。「千年の檜には千年のいのちがある」「木は鉄より強し」。速さと量だけを競う、模倣だけの技術とは根本的に異なる日本人のいにしへの叡智。そして明快な指針。千年先に命を繋いでいくという途方もない時間の流れが、所縁ある人々へのインタビューから浮かび上がってゆく。

◆西岡常一◆にしおかつねかず(1908年生-1995年没 86才にて) 宮大工。奈良県生まれ。法隆寺の「昭和の大修理」で、世界最古の木造建築の金堂や五重塔などの解体修理を手掛けた。薬師寺金堂などを再建。さらに薬師寺三蔵新伽藍の造営に尽力した。飛鳥時代の古代建築工法で大伽藍を造営できる「最後の宮大工棟梁」と言われた。

2012 9月30日(日)

諏訪湖ハイツ コンベンションホール(中3階)

上映開始時刻

午前10時/午後1時30分/午後5時

参加費 前売・予約 1000円

当日1200円/中高校生500円